

共同運営部門：救急診療部

一 関係部署一

診療局、全診療科	事務局
救命救急センター	検査科
臨床研修部	薬剤科
看護局	放射線技術科

一 概要一

りんくう総合医療センターでは、脳卒中や循環器疾患などの専門救急を中心に、1997年の新病院竣工以来積極的に救急患者を受け入れてきた。その中心的役割を共同運営部門である救急診療部が担い、時間外救急外来患者数（救急者搬送以外を含む）はピーク時には2万2千人を超えた（2002年）。しかしながらその後、呼吸器内科や消化器内科といった内科系主要診療科の撤退により内科の救急告示を取り下げざるを得ない事態となり、2008年以降時間外救急外来患者数は急激に減少した（図1）。

時を同じくして、大阪府下における救急医療体制は崩壊の危機に瀕しており、特に大阪府南部地域の救急医療体制の立て直しは喫緊の課題であった。2009年度から始まった泉州圏域における地域医療再生計画の一環として、泉州南部地域の救急医療体制について、三次救急医療はこれまで通り泉州救命救急センターが、二次救急医療はりんくう総合医療センターが泉州救命救急センターと協働して中心的役割を担うこととなった。さらに、「高度専門医療と重症救急医療の融合」を目指して、2013年4月をもって、大阪府立泉州救命救急センターは地方独立行政法人りんくう総合医療センターに移管統合された。

二次救急医療はりんくう総合医療センターが地域の中核病院として総力を挙げて取り組むべきプロジェクトであるが、二次救急のコアになる診療科として2011年に泉州救命救急センターのスタッフを動員して救急科が新設された。これにより、診療時間内は救命医師指導下での一年目初期研修医によるプライマリー体制が確立し、確実な救急受け入れと初期研修医の教育体制の充実に繋がった。診療時間外の救急は、2～8年目の初期後期研修医および若手医師がプライマリー医師を勤め、その上に指導的立場のスタッフが救急責任医師として当直する体制を構築し、各専門救急担当医師や救命センター医師がいつでもコンサルテーションを受ける体制としている。また、救急科の新設により、入院診療科のはっきりしない症例も取りあえずは救急科としてスムーズな入院が可能になり、診療時間外プライマリー医師の負担軽減につながった。

入院病床としては、5階海側病棟に緊急入院や重症患者管理用の病床として救急科・中央管理病床14床とHCU 4床を配置している。また、当院では各病棟の空床は、当該診療科以外であっても使用できるフリーアドレス制を採用して、病床の有効利用に努めている。2016年10月からは、夜間帯の救急責任医師を救命センターの医師が担当して、一層の受け入れ態勢の強化を図った。

これらの対策を講じた結果、減少していた救急外来患者数は救急搬送患者を中心に2013年度より再上昇に転じ（図1、表1）、2017年度には救急搬送受け入れ患者数が4,500件に達し、救急外来患者数も1万人を超えて増加している。泉州救命救急センターの三次搬送患者数と合計すると6,500件を超える救急車を受け入れている。

救急外来の救急搬送依頼に対する応需率は、1月、2月は満床のため応需率が低下したが、他は概ね90%以上の応需率であった（表2）。

また、2015年度には、感染症患者の対応を考慮して、救急外来に陰圧室を整備した（写真）。

表3～6に、2017年度のwalk in および救急車受け入れ患者数、救急隊別搬送患者数、診療科別受け入れ患者数および入院患者数を示した。

一 実績一

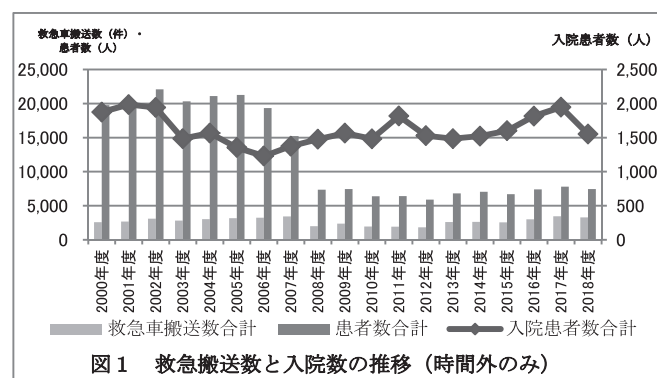


表1 救急外来患者数（診療時間内外合計）

	患者数		入院数		救急搬送数	
	合計	月平均	合計	月平均	合計	月平均
2009年度	8,930	744	1,966	164	3,224	269
2010年度	7,749	646	1,880	157	2,696	225
*2011年度	8,133	678	2,338	195	2,813	234
2012年度	7,652	638	1,971	164	2,691	224
2013年度	8,909	742	2,036	170	3,663	305
2014年度	9,306	776	2,123	177	3,716	310
2015年度	9,024	752	2,231	186	3,622	302
2016年度	9,925	827	2,440	203	4,014	335
2017年度	10,562	880	2,655	221	4,529	377
2018年度	10,302	859	2,242	187	4,361	363

*2011年度下半期は、泉州救命救急センター改修工事のため三次救急患者もりんくう救急外来で受け入れ。

表2 救急搬送依頼応需率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送依頼数	378	399	403	523	513	455	388	370	375	445	276	383	4908
救急車応需件数	355	384	379	477	469	404	356	300	342	343	208	344	4361
応需率	93.9%	96.2%	94.0%	91.2%	91.4%	88.8%	91.8%	81.1%	91.2%	77.1%	75.4%	89.8%	88.9%
救急車不応需	23	15	24	46	44	51	32	70	33	102	68	39	547
不応需率	6.1%	3.8%	6.0%	8.8%	8.6%	11.2%	8.2%	18.9%	8.8%	22.9%	24.6%	10.2%	11.1%

表3 救急外来 Walk In／救急車別 受診数

受診方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Walk In	489	498	521	560	605	624	492	424	465	540	330	393	5,941
救急車	355	384	379	477	469	404	356	300	342	343	208	344	4,361
合計	844	882	900	1,037	1,074	1,028	848	724	807	883	538	737	10,302

表4 救急外来救急隊別救急搬送数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉佐野	146	162	162	216	172	175	145	136	163	162	109	153	1,901
泉南	54	77	63	77	96	87	67	64	68	51	32	63	799
阪南	50	48	39	52	46	42	42	20	27	31	19	37	453
熊取	24	34	39	40	47	34	31	25	21	28	14	28	365
田尻	46	32	42	55	52	33	34	30	34	25	16	32	431
貝塚	17	11	8	17	16	15	16	7	8	18	7	17	157
岸和田	4	3	5	2	9	5	6	7	7	8	3	5	64
和泉	3	2	2	3	5	4	1	2	3	2	4	2	33
岬	1	4	7	5	13	5	2	1	1	8	1	4	52
泉大津	1	2		1	3	1	2	1	3	6	1	1	22
堺	1	1		2	1	1	1	1	3	1	1		13
忠岡			1	2	1	1	1		2				9
高石						1						1	2
大阪府内	1	1	1				8	5	2	3	1	1	23
大阪府外					1			1					2
その他	7	6	9	6	7								35
合計	355	384	379	477	469	404	356	300	342	343	208	344	4,361

表5 救急外来診療科別受診件数
(初診以外、点滴、ガーゼ交換等含む)

科分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急科	629	637	648	766	815	774	720	592	637	670	405	584	7877
外科系	5	3	6	5	9	8	8		2	0	2	4	46
産婦人科	100	117	120	122	111	100	33	33	39	54	48	36	913
小児科	39	39	52	43	62	59	41	40	60	87	47	51	620
循環器科系	23	40	26	33	26	18	30	27	33	34	14	21	325
泌尿器科							2	3					5
内科系	11	10	8	11	15	10	5	6	7	5	5	11	104
脳神経外科	14	16	13	19	12	21	15	19	22	28	10	26	215
耳鼻咽喉科	22	18	26	33	22	34	1	2	3	5	5	4	175
心臓血管外科									2		2		4
整形外科	1	2			2	4	1	1	1				12
整形外科			2	1	1			1	1				6
合計	844	882	900	1,037	1,074	1,028	848	724	807	883	538	737	10,302

表6 救急外来入院診療科別受診件数

科分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急科	89	95	86	128	114	98	140	101	115	101	59	104	1,230
外科	9	2	4	6	6	2						3	32
救命診療科	4	7	8	5	6	4							34
形成外科					1								1
血液内科		2	1	2	1	1							7
産婦人科	56	47	63	63	54	55	4	7	5	8	8	8	378
歯科口腔外科	1												1
耳鼻咽喉科			3	1		2		2	1	2			11
循環器内科	11	16	15	24	16	11	15	17	14	23	7	13	182
小児科	10	4	8	2	12	8	3	5	5	2	5	7	71
消化器内科	2	5	2	7	3	3	1	1	2	1	1	1	29
心臓血管外科									1		1		2
神経内科	1					1	1						3
腎臓内科	2		5						1	1			9
整形外科	1	2	3	2									8
内科	2	4	3	5	6	4							24
脳神経外科	14	13	14	25	18	25	12	16	21	19	5	18	200
泌尿器科	2	2	2	1	4	2							13
総合内科・ 感染症内科							2	2		1	1	1	7
合計	203	199	218	271	241	216	178	151	165	158	87	155	2,242

—今年度の成果と反省点—

コンスタントに救急搬送患者の受入れができ、入院率および入院患者数も増加している。診療時間内の初期研修体制も充実し、1年目の初期研修医には良い研修ができた」と好評であった。入院後の救急科と専門診療科間のコミュ

ニケーショントラブルが時々見られ、より確実な救急受け入れを行うためには、各診療科間の協力体制の更なる強化が必要である。

また、2016年10月より休日日勤帯以外の診療時間外の救急責任担当医師をすべて救命救急センタースタッフが務め、更なる救急受け入れ患者数の増加を図った。その結果、りんくう総合医療センターの救急車受け入れ患者数は4,500件(救命センターと合計して6,500件)を超えて増加した。

—来年度への抱負—

今後は内科系診療科の診療体制の充実と、専門診療科間の協力体制の強化により、一層確実な救急患者の受け入れ体制の確立に努め、地域に信頼される医療機関を目指したい。

また、冬場は空床確保に難渋する日も多く、満床を理由に断らざるを得ない症例もあり、病床の効率的な運用を如何にして達成するかが重要となる。そこで2018年4月に開設された患者サポートセンターをコントロールタワーとして、地域医療機関との病病、病診連携を一層強化して、各病棟長および病棟師長と協同して病床の回転率の向上に努めたい。



【陰圧室】



【陰圧装置】